

## 第6章 小児看護学教育における授業評価 ～教授・学習評価支援システムの活用～

中垣紀子（昭和大学医療短期大学）

### はじめに

看護は、社会環境を反映した人々のニーズに応じていくことが要求されるため、社会の変化を敏感にとらえ、未知の課題に積極的に取り組み解決しようとする姿勢および豊かな創造性が求められる。

近年、世の中の変化はめまぐるしく、子どもとその家族をとりまく環境には、少子化、都市化・工業化、空気・水質・食糧の汚染、交通量の増加、学歴偏重の教育体制、不登校、いじめ、学級崩壊、暴力行為、遊べる場所の不足、虐待などの問題がある。また、医療技術の進歩により入院している子どもたちの病気は複雑化している。このように、社会環境と関連し、現代の子どもたちの心身に関わる問題は多様化、複雑化していることから、今日の子どもと家族に対する援助のあり方にも変化が求められる。小児を看護するためには、子どもとのコミュニケーション技術や家族を理解し、支援することが大切であり、こうしたことを理解するには、より専門的で高度な学習が必要となってくる。

しかしながら、これらのことを教育するとなると膨大な時間数が必要となってくる。限られた時間の中では不可能といえる。入学して2年目の看護学科の学生（2年生）は、まだ健康な子どもに接した経験もない学生が多く、臨地実習で小児病棟の実習をするのは、次年度の3年生になってからである。授業は、すべてを教え込む場とせず、学生が小児看護学に関心を持ち、学生自身が自ら学ぼうという動機づけを行うものとし、授業内容の全体像を示し、部分的にはなるが具体的な看護例を示すことにならざるを得ない。

このような状況において、変化する社会に、できる限り即応した小児看護学の教育をするためには、教員は常に自己の授業を評価し、改善していくことが重要である。良い授業とは、魅力的な授業とは、望ましい授業とは、どのような授業であろうか。授業は実にさまざまな要因が、複雑に絡み合いながら変化する。本研究では、授業評価は授業改善に生かされてこそ意味があるという視点にたち、学内のコンピュータ等のメディアを活用した小児臨床看護論の授業について、学生による授業評価をし、授業改善の示唆を得ることを目的とした。

### 1. 授業の概要

#### (1) 授業科目

小児臨床看護論。①平成10年度後期（10月2日～平成11年2月5日）講義16回

②平成11年度後期（10月1日～平成12年2月4日）講義15回

#### (2) 対象

A 短期大学看護学科2年生受講学生

①平成10年度（1回生）105名

1年次の情報科学の授業は、情報科学Ⅰが必修で、情報科学Ⅱが選択であり、必修のみの学生43名と情報科学Ⅱを選択した学生62名。

②平成11年度（2回生）99～106名（15回の授業日による出席人数の差）

1年次の情報科学の授業は、情報科学Ⅰ必修のみの学生67～72名と情報科学Ⅱを選択した学生32～34名。

(3) 教授目標

小児の健康が障害されたことによっておこるさまざまな問題は、小児の発達段階によって大きく異なる。小児の疾患と発達段階に応じた看護を学ぶ。また、疾病および入院が小児とその家族に及ぼす影響を理解し、適切な援助が考えられるようにする。小児看護における特殊技術について理解する。

(4) 授業の内容

- 1回目（10/1）： 講義のガイダンス。小児とその家族にとっての病気・入院。
- 2回目（10/8）： 小児とその家族にとっての病気・入院。小児の看護の目標。看護者の役割。
- 3回目（10/15）： 学内演習の看護技術に関するグループ学習。
- 4回目（10/22）： 小児とその家族にとっての手術。
- 5回目（10/29）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
①新生児期（低出生体重児、呼吸機能障害）
- 6回目（11/5）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
②乳児期（消化機能障害、先天異常）。関連した看護技術。
- 7回目（11/12）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
②乳児期（循環器障害）。こどもの事故、医療事故。
- 8回目（11/19）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
②乳児期（悪性新生物）。関連した看護技術。
- 9回目（11/26）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
③幼児期（循環器障害、防衛機能障害）。関連した看護技術。
- 10回目（12/3）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
③幼児期（造血機能障害、悪性新生物）。関連した看護技術。
- 11回目（12/10）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
④学童期（防衛機能障害、排泄障害）。関連した看護技術。
- 12回目（1/14）： 小児の看護技術に関する筆記試験（60分）。発達に障害を持った児への支援。
- 13回目（1/21）： 発達に障害を持った児への支援。
- 14回目（1/28）： 小児の疾患と看護（発達段階別に各期の主な疾患の看護を学ぶ）  
⑤思春期（精神機能障害）。子どもの虐待。
- 15回目（2/4）： ターミナル期の小児の看護

(5) 利用メディア

## ①平成10年度後期

講義、スライド、大型情報提示用のプロジェクター装置、学生が個々に使用できるパーソナルコンピュータ、学内のLAN (Local Area Network)、時々VTR、小児の看護技術に関する課題レポート、授業開始時と終了時のアンケートの質問紙(資料1、資料2)。

## ②平成11年度後期

講義、スライド、大型情報提示用のプロジェクター装置、スライドをプリントし資料として配布、学生が個々に使用できるパーソナルコンピュータ、学内のLAN (Local Area Network)、時々VTR、小児の看護技術に関する課題レポート、授業開始時と終了時のアンケートの質問紙。授業の13回分に対しての教授・学習評価支援システムの評価調査用紙(マークシート)(資料3)。

## 2. 調査方法

## (1) 平成10年度(1回生)105名

メディアを活用した授業に対する学生の関心について、2年次の小児臨床看護論の授業開始時と終了時に質問紙によるアンケート調査を実施した。アンケートの主な内容は、《授業開始時》①情報科学Ⅱの選択の有無。②グループ学習したことをコンピュータを使って発表する意志があるかどうか。《授業終了時》③授業の内容は理解できたか。④授業について興味をもてたか。⑤スライド画面は見やすかったか。⑥画像(写真や図など)は、具体的にイメージするのに役立ったと思うか。⑦授業に対する意見。等であった。①については「選択した」「選択しなかった」の2項選択回答、②～⑥については、「そう思う」から「そう思わない」までの5段階で回答を求めた。⑦については自由記述とした。

授業開始時と終了時の学生の意識および反応等の追跡のために学籍番号と氏名をアンケートに記述するように求めた。

## (2) 平成11年度(2回生)99～106名(15回の授業日による出席人数の差)

メディアを活用した授業に対する学生の関心について、2年次の小児臨床看護論の授業開始時と終了時に質問紙によるアンケート調査を実施した。アンケートの主な内容は、《授業開始時》①情報科学Ⅱの選択の有無。②グループ学習したことをコンピュータを使って発表する意志があるかどうか。《授業終了時》③授業の内容は理解できたか。④授業について興味をもてたか。⑤スライド画面は見やすかったか。⑥画像(写真や図など)は、具体的にイメージするのに役立ったと思うか。⑦授業に対する意見。等であった。①については「選択した」「選択しなかった」の2項選択回答、②～⑥については、「そう思う」から「そう思わない」までの5段階で回答を求めた。⑦については自由記述とした。

1回生のアンケートにおいて、③～⑦までの結果により明らかに求められた授業改善は、2回生に対して改善した授業を実施した。

毎回の授業終了時に教授・学習評価支援システムの評価調査用紙(マークシート)を使用し、授業の評価をした。但し、15回の授業のうち2回は、学内演習の看護技術に関するグループ学習および小児の看護技術に関する筆記試験を実施したため除いた。教授・学習評価支援システムの評価調査用紙(マークシート)は、ア.わかりやすかった。イ.新たな発見があ

った。ウ. 興味深かった。エ. 授業の構成は適切であった。オ. 有益であると思った。カ. 授業に集中できた。キ. 総合的に満足できた。ク. 授業に対する意見。等であった。ア～キの7項目については、「あてはまる」から「あてはまらない」までの4段階で回答を求めた。⑦については自由記述とした。また、学籍番号と氏名をアンケートに記述するように求めた。

授業開始時と終了時の学生の意識および反応等の追跡のために学籍番号と氏名をアンケートに記述するように求めた。

### (3) データの分析

授業者の作成した授業開始時と終了時のアンケート調査より得られたデータは、統計解析パッケージ・ソフト StatView を用いて分析した。

教授・学習評価支援システムの評価調査用紙（マークシート）より得られたデータは、メディア教育開発センター（NIME）にて、光学読み取り装置を用いて分析した（例：資料4）。

### (4) 調査期間

1 回生は1998年10月～1999年2月。2 回生は1999年10月～2000年2月。

### (5) 倫理上の配慮

調査の際には、学生に調査の目的およびこの調査によって不利益になることはない旨を伝え、了解を得たうえで調査を実施した。また、調査結果の公表により、回答者が特定できないように配慮した。

## 3. 結 果

### (1) 回答者

#### ① 1回生

有効回答者数は105名で有効回答率100%であった。回答者の平均年齢20.2歳（SD=2.1 R=19～37）。

#### ② 2回生

(i) 授業開始時と授業終了時のアンケート調査につき、回答者を同一とした。有効回答者数は99名で有効回答率100%であった。回答者の平均年齢19.9歳（SD=0.9 R=19～23）。

(ii) 13回の授業の教授・学習評価支援システムの評価調査は、その授業日によって、出席人数に差があり、99～106名であった。

### (2) 調査結果

(i) （授業開始時）グループ学習したことをコンピュータを使って発表する意志があるかどうか。（表1、表2）

情報科学Ⅱを選択した、しないにかかわらず、1回生は48.6%、2回生は45.5%の学生がコンピュータを使って発表する意志があった（したい傾向があった）。この結果は、1回生、2回生とも5%有意水準でt検定を行い、有意であった。

表1. 1回生のコンピュータを使って発表する意志 n=105

	是非したい	したい	どちらかという としたい	したくない	絶対したくない	無回答	計
情報科学 I	3 (2.9)	3 (2.9)	16(15.2)	17(16.2)	4(3.8)	0	43(41.0)
情報科学 I・II	3 (2.9)	4(3.8)	22(21.0)	25(23.8)	6(5.7)	2(1.9)	62(59.0)
計	6(5.7)	7(6.7)	38(36.2)	42(40.0)	10(9.5.2)	2(1.9)	105(100.0)

・数字は人数、( )内の数字は、割合を示す。

・P&lt;.00001

表2. 2回生のコンピュータを使って発表する意志 n=99

	是非したい	したい	どちらかという としたい	したくない	絶対したくない	無回答	計
情報科学 I	5 (5.1)	3(3.0)	19(19.2)	32(32.3)	11(11.1)	1(1.0)	67(67.7)
情報科学 I・II	4 (4.0)	2(2.0)	12(12.1)	10(10.1)	3(3.0)	1(1.0)	32(32.3)
計	9 (9.1)	5(5.0)	31(31.3)	42(42.4)	14(14.1)	2(2.0)	99(100.0)

・数字は人数、( )内の数字は、割合を示す。

・P&lt;.00001

## (ii) (授業終了時) 1回生の授業に関する学生の評価

授業の内容は理解できたか、授業について興味をもてたか、スライド画面は見やすかったか、画像(写真や図など)は、具体的にイメージするのに役立ったと思うか。のこの4項目についての結果を表3に示した。この結果は、5%有意水準でt検定を行い、有意であった。自由記述の結果は、メディアの活用という視点で授業改善に関連する内容を表4に示した。それ以外は、その他の項目に入れた。

表3. 1回生の授業に関する評価 n=105

	そう思う	ややそう 思う	どちらかとい うとそう思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	計	平均 スコア
授業の内容は理解できたか	11(10.5)	27(25.7)	47(44.8)	20(19.0)	0	0	105(100)	3.3
授業について興味をもてたか	8(7.6)	25(23.8)	42(40.0)	23(21.9)	6(5.7)	1(1.0)	105(100)	3.1
スライド画面は見やすかったか	35(33.3)	19(18.1)	24(22.9)	19(18.1)	7(6.7)	1(1.0)	105(100)	3.5
画像はイメージするのに役立ったと思うか	56(53.3)	19(18.1)	22(21.0)	5(4.8)	2(1.9)	1(1.0)	105(100)	4.3

・数字は人数、( )内の数字は割合、◇内の数字は5段階の平均スコアを示す。

P&lt;.00001

表4. 授業改善に関連する内容

スライドの内容をプリントしてほしい	33(31.4)
スライドの送りが速すぎる	23(21.9)
その他	49(46.7)
計	105(100)

・数字は人数、( )内の数字は、割合を示す。

(iii) (授業終了時) 2回生の授業に関する学生の評価

授業の内容は理解できたか、授業について興味をもてたか、スライド画面は見やすかったか、画像(写真や図など)は、具体的にイメージするのに役立ったと思うか。のこの4項目についての結果を表5に示した。この結果は、5%有意水準でt検定を行い、有意であった。

表5. 2回生の授業に関する学生の評価

n=99

	そう思う	ややそう 思う	どちらかとい うとそう思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	計	平均 スコア
授業の内容は理解できたか	21(21.2)	46(46.5)	31(31.3)	1(1.0)	0	0	99(100)	《3.9》
授業について興味をもてたか	18(18.2)	59(59.6)	20(20.2)	4(4.0)	0	0	99(100)	《4.0》
スライド画面は見やすかったか	63(63.6)	22(22.2)	12(12.1)	2(2.0)	0	0	99(100)	《4.5》
画像はイメージするのに役立ったと思うか	80(80.8)	14(14.1)	3(3.0)	2(2.0)	0	0	99(100)	《4.7》

・数字は人数( )内の数字は割合《 》内の数字は5段階の平均スコアを示す。

・P < 0.0001

(iv) 2回生の教授・学習評価支援システムの評価調査用紙(マークシート)による授業評価  
わかりやすかった、新たな発見があった、興味深かった、授業の構成は適切であった、有益であると思った、授業に集中できた、総合的に満足できたの7項目の評定平均値の推移を  
図1に示した。

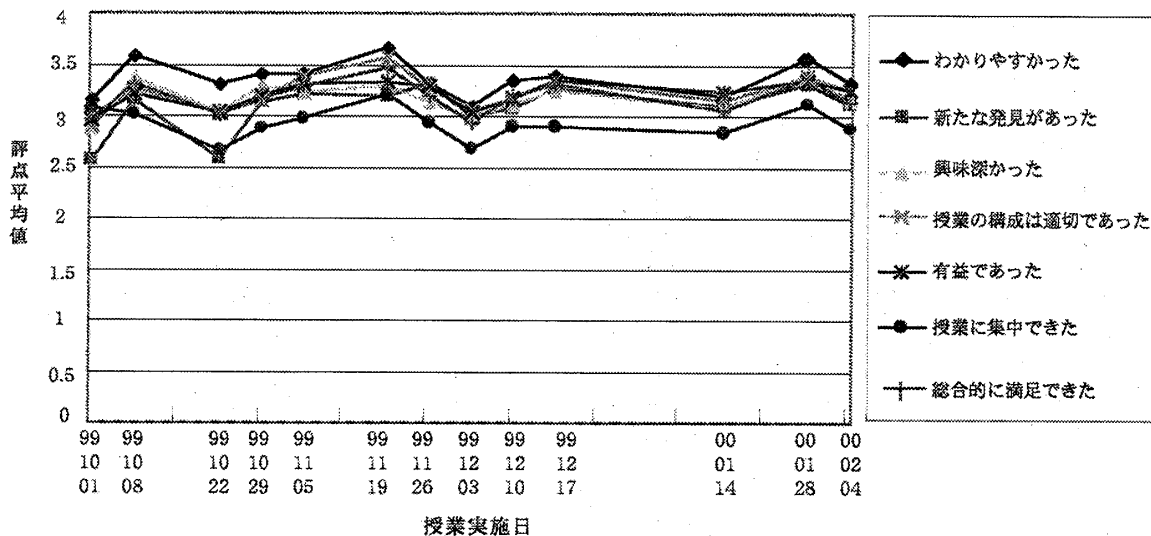


図1 『小児臨床看護論』(1999年度後期) 授業ごとの評価調査項目平均値の推移

(v) 2回生の自由記述による意見

授業終了時と毎回の教授・学習評価支援システムの評価調査用紙(マークシート)による授業評価による学生の意見をポジティブな意見とネガティブな意見と希望に分類した(学生の言葉をそのまま記載するようにした)。

a ポジティブな意見

- ・小児にとって病氣、入院がどういう意味を持つのが大切だと思った。
- ・小児の看護の役割は、成人よりも心の面や身体面、社会面を考えていく必要があると思っ

た。

- ・スライドを使ってわかりやすかった。話しを聴くだけより実際に映像があった方が興味深い。
- ・スライドが見やすくよかった。
- ・先生のスライドは、字ばかりでなく、絵も書かれていてすごく楽しかった。
- ・先生の絵はうまくてかわいかった。
- ・スライドの初めに、いわさきちひろさんの絵をもってきたりしているところが、とても良い。
- ・実際の患児の写真を見せてくれたり、ビデオを見せてくれたので、どういうものか想像ができ、わかりやすかった。
- ・スライドやビデオで心に残る授業が多く、先生の話も興味深かった。
- ・骨髄・腰椎の穿刺のビデオが忘れられない。穿刺の方法もよく理解できるし、小さな子があんなに頑張っている様子からも、ものすごく考えさせられ、感じることが多い。来年の2年生にも見せてほしい。
- ・スライド内容をコピーでもらえることで授業が聞きやすかった。
- ・今日くらいのスライド量がちょうど良い。
- ・プリントが配られるので、後、復習しやすかった。
- ・プリントや教科書のページを教えてくれたので、わかりやすかった。
- ・授業に興味を持てた。次ぎの授業が楽しみ。
- ・先生の体験談は、とてもリアルでわかりやすかった。また、スライドでたくさんの写真などが見られて、疾患についてより想像がしやすかった。
- ・先生の説明は、日常のレベルで話してくれるのでわかりやすかった。
- ・実際に血糖値を測らせてくれたりして良かった。
- ・課題提出、その試験などがあって、はじめは面倒くさいと思っていたが、今は自分にとって有益であったと思う。
- ・あの課題をやるのは、すごく大変だったけど、すごく勉強になったし、やりとげた達成感がすごかった。
- ・先生のように小児と関わっていきたいと思った。

#### b ネガティブな意見

- ・画像（写真や図など）について、印刷したものが少し見にくかった。
- ・スライドが大嫌い（苦手）なので1/3ぎりぎりまで休んでしまいました。スライドが苦手な学生がいることもふまえてほしい。
- ・スライドの講義は個人的にはあまり好きではなかった（分かり難いため）。来年は普通の授業の方がいいと思う。
- ・スライドの色が見にくい部分があった。
- ・課題のテストを行ったことで、本試験の点が少し悪くても、課題テストの内容も考慮してもらえたらあったほうが良いが、ただ確認のためのテストならあまりやってほしくない。
- ・マークシートは止めた方がいい、紙がもったいない。

- ・時間が金曜日の4限というのがつかかった。ねてしまってゴメンナサイ。
- ・提出物が多い。
- ・病態、病理やそれに合わせた治療が中心の講義のような感じがした。せっかく看護の授業なので看護中心の講義をして欲しかった。
- ・PCを使うと分かりにくいので、普通の授業の方が良い。絶対、板書の授業がいい。

#### c 希望

- ・先生の体験談がもっと聞きたかった（特に困ったこと、よく遭遇したこと、事例）。
- ・病気の子どもの状態、気持ちについて映像があるともっとわかりやすい。
- ・障害（身体的障害、知的障害）を持った子の看護。
- ・もっと看護についての内容をしてほしい。
- ・小児のビデオを見たい。
- ・現場のビデオがもっと見たい。
- ・プリントのサイズをできれば毎回同じにしてほしい。A4にしてほしい。
- ・もっとリアルな話しが聞きたい。
- ・小児特有の疾病をもっと多くやりたい。
- ・伝染病を詳しく。ワクチンとか未だにわからない。

## 4. 考 察

教育は本来、相互的なものであり、学生の主体的能力を育てるうえで、学生の興味や関心および能力を講義の中で発揮する場を持つことは、内発的動機づけや効力感をもたらすことにつながるであろう。本格的な高度情報社会が到来するのは、間近であるといわれている今日、看護を学ぶ学生の教育課程において、情報科学は必修の授業科目とされつつある。コンピュータの機能を活用した学習プログラムは、果たして、情報科学を履修し看護を学んでいる学生の学習へのモチベーションに影響を与える因子となりうるのであろうか。大型情報提示用のプロジェクター装置、学生が個々に使用できるパーソナルコンピュータ、学内のLAN（Local Area Network）を活用した小児臨床看護論の授業について、学生による授業評価をし、メディアを活用した授業に対する学生の関心を明らかにするとともに、授業改善の示唆を得たいと考えた。

今回は、授業開始時に、グループ学習したことをコンピュータを使って発表する意志があるかどうか。という質問で、情報科学Ⅱを選択した、しないにかかわらず、学生がコンピュータを使って発表する意志があった（したい傾向があった）のは、1回生は48.6%、2回生は45.5%であり、いずれも積極的とは言い難い。発表の手段としては、効果的であると認識し、コンピュータの機能の有用性は十分に認めているものの、グループ学習をコンピュータを使って発表するには、気持ちとは反対に、それ相応の時間と労力が必要なため、種々な面からのゆとりが必要になり、容易にはできない状況にあるからではないかと推測できる。

授業で学び、気づき、啓発されるのは学生だけでなく、教員も自らの授業を通して、学び、気づき、成長するという相互成長、相互啓発の働きは、教員と学生とのコミュニケーションによって支えられている。その意味で、学生による授業評価は、授業改善に果たす役割が大きいといえよう。今回、1回生の授業終了時のアンケート調査による後期の授業評価では、4項目



の平均スコアは、5段階評価で3.1～4.3であり、ポジティブな評価とはいえ、改善の余地があった。56%の学生は自由記述で、スライドの内容を書き写すのが精一杯で教員の話しがきちんと聴けない、スライドの送りが速すぎる、できるだけ講義内容を授業中に教員の講義を聴いて理解したい、そのためスライドの内容をプリントしてほしいと述べていた。これらの学生の評価を参考にし、2回生には、スライドの内容をプリントし配布した。その結果、2回生の授業評価では、4項目の平均スコアは3.9～4.7に高くなった。この結果から、メディアを活用した授業において、学生の評価による授業改善を図ったことにより、学生の興味・関心を高め、理解を深めたといえよう。授業の理解度については、学生と教員間の知覚は、必ずしも一致しないと考えられ、目標達成に向けて授業を改善するためには、教員が提供した授業の直接的経験者である学生を評価主体とする評価が、必要不可欠であると示唆された。

2回生の教授・学習評価支援システムの評価調査用紙（マークシート）による授業評価において、わかりやすかった、新たな発見があった、興味深かった、授業の構成は適切であった、有益であると思った、授業に集中できた、総合的に満足できたの7項目の評定平均値の推移をみると、比較的高い評定平均値でその授業日によって若干の高低をほぼ平行に推移している。これは、1回生の授業の学生による授業評価により、改善を図った所以ではないかと考えられる。

自由記述による学生の意見では、ポジティブな評価においては、教員がコンピュータで作成した授業資料のスライドを大型情報提示用のプロジェクター装置を活用して、学生に見せながら授業をすすめたこと、スライドをプリントし資料として配布したこと、時々活用したVTRが、学生の興味・関心を高め、理解を深めたと評価される。ネガティブな評価においては、スライドを使った講義はあまり好きではなく、むしろ苦手であるという意見にあるように、授業スタイルの好みともいえる。授業終了時のアンケート調査による後期の授業評価や教授・学習評価支援システムの評価調査用紙（マークシート）による授業評価の結果からもこれらの意見は少数であることは、推測できよう。しかし、少数とはいえ、教員自身が学生の気持ちを理解したうえで、いかに自己の授業の目的を達成するかということになり、工夫が必要であることが示唆された。学生の授業への希望では、教員の看護体験、病気の子どもや障害（身体的障害、知的障害）を持った子どもの看護など、この授業の内容がより深められることを望んでおり、学生の興味・関心を高められている結果ともいえよう。

## まとめ

今回の小児看護学教育における授業評価において、以下のことが明らかになった。

1. 学生による授業評価をし、授業改善することにより、授業評価のスコアが高くなった。学生の興味・関心を高め、理解を深めたと評価される。
2. 授業改善においては、学生とのコミュニケーションが大切であり、学生の希望や気持ちを理解し、要望を受け入れていくことは授業の改善につながる。
3. 限られた時間の中で、授業の内容を深めるには工夫が必要である。
4. 学生は、今日の情報化社会においても、また、情報科学を学んでいても、授業の中でコンピュータを自ら操作することには消極的である。

## 謝 辞

今回の教授・学習評価支援システムの評価調査用紙（マークシート）による授業評価の調査、集計に際しましては、メディア教育開発センターの大塚雄作先生、三尾忠男先生に多大なご協力をしていただきましたことを深謝致します。

## 参考文献

- 1) 中垣紀子：メディアを活用した授業に対する学生の関心、日本看護学教育学会誌、9(2)、87、1998.
- 2) 米谷淳：学生による授業評価、看護教育、40(9)、762-765、1999.
- 3) 杉森みど里、亀岡智美：看護系大学・短期大学における自己点検・評価の現状と課題、Quality Nursing、5(5)、4-8、1999.
- 4) 大塚雄作、三尾忠男：毎回授業評価調査の試みとその活用法、研究報告、第07号、メディア教育開発センター、181-188、1999.
- 5) 高林克日巳：医学部における講義形態と学生、研究報告、第07号、メディア教育開発センター、105-108、1999.

資料1. 授業開始時のアンケート

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

以下の質問にお答え下さい。

「小児臨床看護論」の講義を始めるにあたって、参考にしたいと思います。評価等には、一切関係ありませんし、個人名で出すようなことは一切ありません。

(1) 選択科目で情報科学Ⅱを選択しましたか。

イ、選択した

ロ、選択しなかった

(2) 小児臨床看護論の後半で『小児の日常よくみられる症状』をグループワークで学びその発表をパソコンを使ってすることを考えていますが、あなたはどのように考えますか。(情報科学のA先生、B先生は指導して下さるそうです。勿論、私 中垣も)

是非	そうしてほしい	どちらかという	そうしてほしく	決してそうし
そうしてほしい		そうしてほしい	ない	てほしくない
5	4	3	2	1

(3) 小児臨床看護論の講義に期待することがあれば書いて下さい。

(4) その他何かご意見等あれば書いて下さい。

資料2. 授業終了時のアンケート

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

以下の質問にお答え下さい。

「小児臨床看護論」の講義を終了するにあたって、今後の参考にしたいと思います。評価等には、一切関係ありませんし、個人名で出すようなことは一切ありません。

出席回数の自己申告：何回欠席しましたか。( ) 回

(この質問は以下の質問との関係のみをみるだけですので、気にしないで答えて下さい。  
決してあなたの不利益にはしません。)

(1) 授業の内容は、理解できましたか。

理解できた	やや理解できた	どちらかというあまり理解できなかった	理解できなかった
5	4	3	2

(2) 授業についてどう思いましたか。

興味をもてた	やや興味をもてた	どちらかというあまり興味をもて	興味をもて
5	4	3	2

(3) スライドは見やすかったと思えますか。

思う	やや思う	どちらかというと思う	あまり思わない	思わない
5	4	3	2	1

(4) 画像(写真や図など)などは、具体的にイメージするのに役立つと思えますか。

思う	やや思う	どちらかというと思う	あまり思わない	思わない
5	4	3	2	1

(5) その他、小児臨床看護論の講義などに関することなど、ご意見があれば書いて下さい。



資料4 「教授・学習評価支援システム」の評価調査結果の例

(平成11年10月8日の授業評価)

1 この授業に関して、全般的にどのように感じたか、以下のそれぞれの意見について、あなたのあてはまりの程度を、4段階で評定してください。なお、授業改善の目的以外には皆さんの意見を利用する事はありませんし、成績には全く関係ありません。	パーセント	大学	講座	教授		
	1	58	435	201	(4)	(3)
1. わかりやすかった .....	60.8	36.3	2.9	0.0	3.58	有効 102
2. 新たな発見があった .....	34.0	48.5	16.5	1.0	3.16	103
3. 興味深かった .....	49.0	41.0	9.0	1.0	3.38	100
4. 授業の構成は適切であった .....	41.7	44.7	13.6	0.0	3.28	103
5. 有益であると思った .....	34.3	52.0	13.7	0.0	3.21	102
6. 授業に集中できた .....	30.4	42.2	25.5	2.0	3.01	102
7. 総合的に満足できた .....	46.0	40.0	13.0	1.0	3.31	100

